

県外派遣報告書

審判員名	山下 大志		所属	ミニ連	
大会名	第39回関東ミニバスケットボール大会				
期間	平成30年1月6日(土)～1月8日(月)				
会場	小瀬スポーツ公園体育館、緑が丘スポーツ公園体育館、山梨市民総合体育館				
スケジュール					
期 日	内 容			場 所	
1月6日(土)	審判会議			ホテル石庭	
1月7日(日)	大会1日目			緑が丘スポーツ公園体育館	
1月8日(月)	大会2日目			小瀬スポーツ公園体育館	
会議 講義 内容					
<p>山梨県バスケットボール協会審判部長河野仁氏によるプレイコーリングガイドラインを用いての講義が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドチェックに関しては意識をして判定をしないとこぼれる原因となり、ゲームが荒れるきっかけを作ってしまうことになるので注意する。 ・マンツーマンディフェンス推進の影響でスクリーンプレーが多用されているように見受けられる→イリガルスクリーンとなるケース、現象の確認。 ・アンスポーツマンライクファウルやテクニカルファウルなど成立する条件、処置、レアケースに対応できるよう常に準備しておくこと。 ・声を使って示すことで相手審判とのコミュニケーションやプレーヤー、ベンチ、観客へ分かりやすい判定となるように心がける。 					
実技					
担当試合	期 日	1月7日(日)		男子	女子
	対戦カード	宮本(千葉県)	VS	並木SF(茨城県)	
	相手審判	神森 義之 氏(神奈川県)			
ミーティング内容		主任		手塚 清孝 氏(本部)	
<p>最終的には1点を争う好ゲームとなった。ゲーム終盤に両チームとも荒々しいプレーが目立つようになっていったが、ゲームの序盤から一貫して必要なものを取り上げていたので終盤のバタバタしたゲーム展開ではあったが審判としては非常に良い出来だった。</p> <p>リードに入るタイミングが少し遅いため、展開に遅れるケースが出てきてしまう。早めにリードに入ることによってセットアップポジションからクローズダウンポジションへの動きも余裕を持てるし、それがスイッチサイドする際にも生きてくるので意識すること。</p> <p>声を使ったり、ファウルを宣したときに2ショットなのかスローインなのかを示してあげることで相手審判が動きやすかったりプレーヤーやベンチも分かりやすくなるのでトラブルを防げる。</p>					
担当試合	期 日	1月7日(日)		男子	女子
	対戦カード	昭和(山梨県)	VS	汐見台(神奈川県)	
	相手審判	毛呂 裕臣 氏(群馬県)			
ミーティング内容		主任		堀内 勝男 氏(山梨県)	

ハンドチェックに関して毛呂氏が序盤からかなり細かく取り上げた。その判定基準に合わせてゲームに入っていけたらもう少しダブルホイッスルになるケースもあったのではないかと感じる。取り上げたものの中でファウルとして宣する必要のなかったものもあったように思う。ゲームとしては特に難しいケースもなく、序盤の手の使い方の整理によって全体的にファウルも少なくなっていたので無理に判定しなくても良いものがあった。

前の試合の反省であったリードでの動きも積極的にトライできたが、プレゼンテーションの部分については習慣化されてしまっているのもっと強く意識し続けなければ改善できない。

担当試合	期 日	1月8日(月)	男子	女子		
	対戦カード	敷島南(山梨県)	VS	二和(千葉県)	主審	副審
	相手審判	攪上 達也 氏(群馬県)				

ミーティング内容 主任 大木 早織 氏(山梨県)

1位リーグの第1試合ということで大変緊張感のあるゲームだった。試合の展開としては敷島南が序盤から圧倒して結果的にはワンサイドゲームとなったため、難しいケースは特になかった。

ゲームの入り方が良かったことで試合をとおしてラフなプレーも無く、滞りなくゲームを進行できたが、トレイルでの位置どりが全体的に高く、リードが判定できないスペースをトレイルで捉えきれていないシチュエーションがあった。

また、マンツーマンコミッショナーの2回目の赤旗があがった際の主審・副審の役割分担について明確に理解できていない部分があった。

前日の反省をもとにプレゼンテーションの部分を強く意識できて試合に臨めた。

担当試合	期 日	1月8日(月)	男子	女子		
	対戦カード	池田(山梨県)	VS	宮の原(栃木県)	主審	副審
	相手審判	山野辺 智晴 氏(本部)				

ミーティング内容 主任 赤羽 沙耶 氏(栃木県)

プレゲームカンファレンスでリード・トレイルのエリア分担やプライマリー・セカンダリーの確認を行った。私が判定しなければならないものを主審の山野辺氏にカバーされてしまう判定がいくつかあり、そういったシチュエーションでエリア分担の意識が薄くなってしまいう結果となった。

ベンチ管理についてもお互いの協力を確認していたが自分が積極的に対応することができず主審山野辺氏に負担をかけてしまった。

リードの動きが少ないのもう少し積極的にスイッチサイドをして判定をするための最適な位置どりを意識できれば良かった。

全体の感想

各都県ミニ連トップレフェリーの方々と研鑽を積めたことは大変貴重な経験となりました。その中でもプレゼンテーションの部分については今後の審判活動の中でも強く意識していきたいと感じました。

また、リードのときのセットアップポジションとクローズダウンポジションの使い方やトレイル時の位置どり・意識しなければならない点など大変多くのことを学ぶことができました。

今回の関東大会派遣にあたり、推薦していただきました県ミニ連審判委員会、県協会審判部会の皆様、また審判に集中できる環境を整えてくださった山梨県ミニ連の皆様へ感謝するとともに、この経験を今後の審判活動に活かし、県内の多くの仲間たちに情報共有をしていけるよう精進してまいります。

ありがとうございました。

注) この報告書は、あくまでもベースです。加工して皆さんにわかりやすく報告することに問題はあります。写真、図等を差し込むこともいいことだと思います。